成24年）1月30日　月曜日　宮崎日日新聞

24.1.30

微生物付着させ汚濁物質分解

「接触材」で大淀川浄化

都城の団体 排水路に設置

都城河川水質改善プロジェクト協議会（奈下信芳会長）は、浄化作用のあるひも状接触材を使って、都城市内の河川浄化に取り組んでいる。県内で初めての取り組み。地域の排水路の水質を改善し、大淀川の浄化につなげる狙い。

県の2009年度末の生活排水処理率は68・6％（全国平均比17・1ポイント減）で、都城市は57・4％とさらに悪い。同協議会は昨年5月にNPO法人や都城市、企業、教育機関など「産学官民」で発足。同8月には県の「新しい公共推進モデル事業」に選ばれ、支援金390万円を受けて活動をスタートさせた。

接触材は市中心部の排水路2カ所に24日までに設置しており、同市都原町の志比田排水路に長さ10メートル、幅1・4メートルを三つ、同市上長飯町の小鷹雨水幹線に長さ10メートル、幅2・7メートルを二つ並べた。接触材は細かい繊維をモール状に加工しており、微生物を付着させて汚濁物質である有機物等を酸化、分解させる仕組み。水深が浅く、流れの遅い場所に適しているという。

25日には県内外の自治体関係者らにプロジェクトを説明し、現地視察も実施。参加者たちは熱心に話に耳を傾け、興味深そうに実物を眺めていた。今後は支援金を活用し、モニタリングなど水質調査、生活排水削減に効果のある洗浄液の配布などを行う予定。

小鷹雨水幹線に設置されたひも状接触材

奈下会長(82)は「接触材を維持、管理していく体制を整え、地域住民の協力を得ながら継続してやっていきたい」と話していた。

（都城支社・赤塚盟）